



山月記
中島敦

- (1) 言葉に、**想像や心情を豊かにする働きがあること**を理解する。
- (2) **情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うこと**を通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
- (3) 文学的な文章を読むことを通して、**我が国の言語文化の特質**について理解を深める。
- (4) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを**的確に捉える**。
- (5) **語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色**について評価することを通して、内容を解釈する。
- (6) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、**解釈の多様性**について考察する。
- (7) 作品の内容や解釈を踏まえ、**人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深める**。
- (8) 典拠である中国唐代の小説『人虎伝』の書き下しや現代語訳を読み、李徴の性格や李徴が虎になった理由について比較することを通して、**人間や社会に対するもの見方、感じ方、考え方を深め、粘り強く我が国の言語文化の特質について理解を深める**中で、自らの学習を深化させる。

※ノートの取り方について

このデータは、あくまで板書の想定ですので、**全てを写すのではなく、自分の必要に応じて加減をしてください**。全て写した方が提出点が上がるという訳ではないです。むしろ**取捨選択と自分だけの情報追加をした方が理解が深まります**。

一段落

開始〈P21・L11

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景

隴西の李徴は進士試験に合格したが賤吏であることに満足できず、職を辞し詩人を志す。しかしその道は厳しく、生活のために再び地方官吏となるも発狂、妻子を残し失踪する。

二段落

〈P23・L5

旧友袁愔との再会

翌年、嶺南に使わされた監察御史の袁愔は、商於に宿泊した翌朝、人食い虎が出るという駅吏の言葉を斥けて出発した。林中を進む一行は虎に襲われるが、その声が李徴であることに気付いた袁愔は会話を交わし、李徴は自身が虎となつたいきさつを語り始める。

三段落

〈P25・L6

李徴の告白（一）変身の過程とその苦悩

一年程前、汝水に宿泊した夜、自分の名を呼ぶ声に応じ外へ出、無我夢中に駆けて行く中に、気がつくと自分は虎となつていた。虎と人間の両方の意識を持つことの苦悩が語られる。

四段落

〈P27・L6

李徴の告白（二）詩の伝録の懇願

元来詩人として名を成すことを希求していた李徴は、袁愔に詩の伝録を依頼する。李徴の声が吟ずる詩を袁愔は部下に書き取らせたが、その詩の評価に関して「どこか（非常に微妙な点において）欠ける所があるのではないか」と感じる。

五段落

〈P29・L9

李徴の告白（三）自身の推測

李徴は人との交わりを避け切磋琢磨に努めず、「臆病な自尊心」と「尊大な羞恥心」を飼いふとらせた結果、情性という猛獣として虎となつてしまったと推測する。虎となった今、詩を発表する方法もなく人間の意識を失いつつある自身の運命の胸を焼く悲しみを訴える。

六段落

〈P30・L11

袁愔に妻子の援助を依頼

李徴は最後に故郷に残してきた妻子の世話を袁愔に頼む。しかし妻子より詩業を優先した自らを自嘲し、袁愔が二度と自分と会うことを望まぬように姿を見せるといふ。

〈終わり

李徴と袁愔の別れ

袁愔一行が出発したあと、先ほどの草地に虎が躍り出て、月に向かつて二声三声咆哮すると叢に戻り、再び姿を見ることはなかった。

六段落

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景隴西の李徴は進士試験に合格したが賤吏であることに満足できず、職を辞し詩人を志す。しかしその道は厳しく、生活のために再び地方官吏となるも発狂し、妻子を残して失踪する。

▼科挙に合格した李徴が「官を退いた」理由は？

▼李徴が「節を屈し」「地方官吏の職を報ずる」ことについて、理由は何？

▼その後の李徴の心情は、どのようなものだったのだろうか？

▼李徴の容貌について述べた一文は？

▼李徴が「闇の中へ駆け出した」のはなぜだろうか？

◆李徴の人物像を明確に想起し、李徴としての人生を自分ごととして思い描いてみよう。

◆このような行動を、もし令和の現代社会で同様に行うとしたら、どのように置き換えられるだろう。

◆発狂するほどまでに自尊心を傷つけられるとは、どれほどの苦しみなのだろう。

導入思考

応用思考

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景隴西の李徴は進士試験に合格したが賤吏であることに満足できず、職を辞し詩人を志す。しかしその道は厳しく、生活のために再び地方官吏となるも発狂し、妻子を残して失踪する。

▼科挙に合格した李徴が「官を退いた」理由は？

① 俗悪な大官の前に長く膝を屈するよりは、詩家としての名を死後百年に遺そうとしたため。

② 己の才を恃む狷介な性格で、賤吏に甘んずることができなかつたため。

▼李徴が「節を屈し」「二地方官吏の職を報ずる」ことについて、理由は何？

① 妻子を養う（衣食の）ため。

② 己の詩業に半ば絶望したため。

▼その後の李徴の心情は、どのようなものだったのだろうか？

かつて自分が齒牙にもかけなかつた同輩がはるか高位に進んでおり、彼らの下命を拜さねばならないことで自尊心を激しく傷つけられ、怏々として楽しまなかつた。

▼李徴の容貌について述べた一文は？

「この頃からその容貌も峭刻となり…」

▼李徴が「闇の中へ駆け出した」のはなぜ？

自尊心を傷つけられる日々、苦しみに、狂悖の性が抑え難くなり、ついに発狂したため。

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景隴西の李徴は進士試験に合格したが賤吏であることに満足できず、職を辞し詩人を志す。しかしその道は厳しく、生活のために再び地方官吏となるも発狂し、妻子を残して失踪する。

時代 天宝の末年

【天宝】中国の唐の第6代皇帝・玄宗の治世後半（742年 - 756年）の年号。開元年間が続く唐の極盛期（盛唐）であり、文化が最高潮に達した一方、末期には安史の乱が勃発し、衰退のきっかけとなった時代。

人物 隴西の李徴

【江南尉】長江以南の軍事・警察を担当する地方官吏（尉）

博学才穎
若くして進士試験に合格
江南尉に任命される

性格 狷介な性格

賤吏に満足しなかった

官職を辞して詩人として名を成そうとする

生活の困窮
妻子の衣食のため・詩行への絶望

地方官吏へ

自尊心を傷つけられ、発狂し失踪

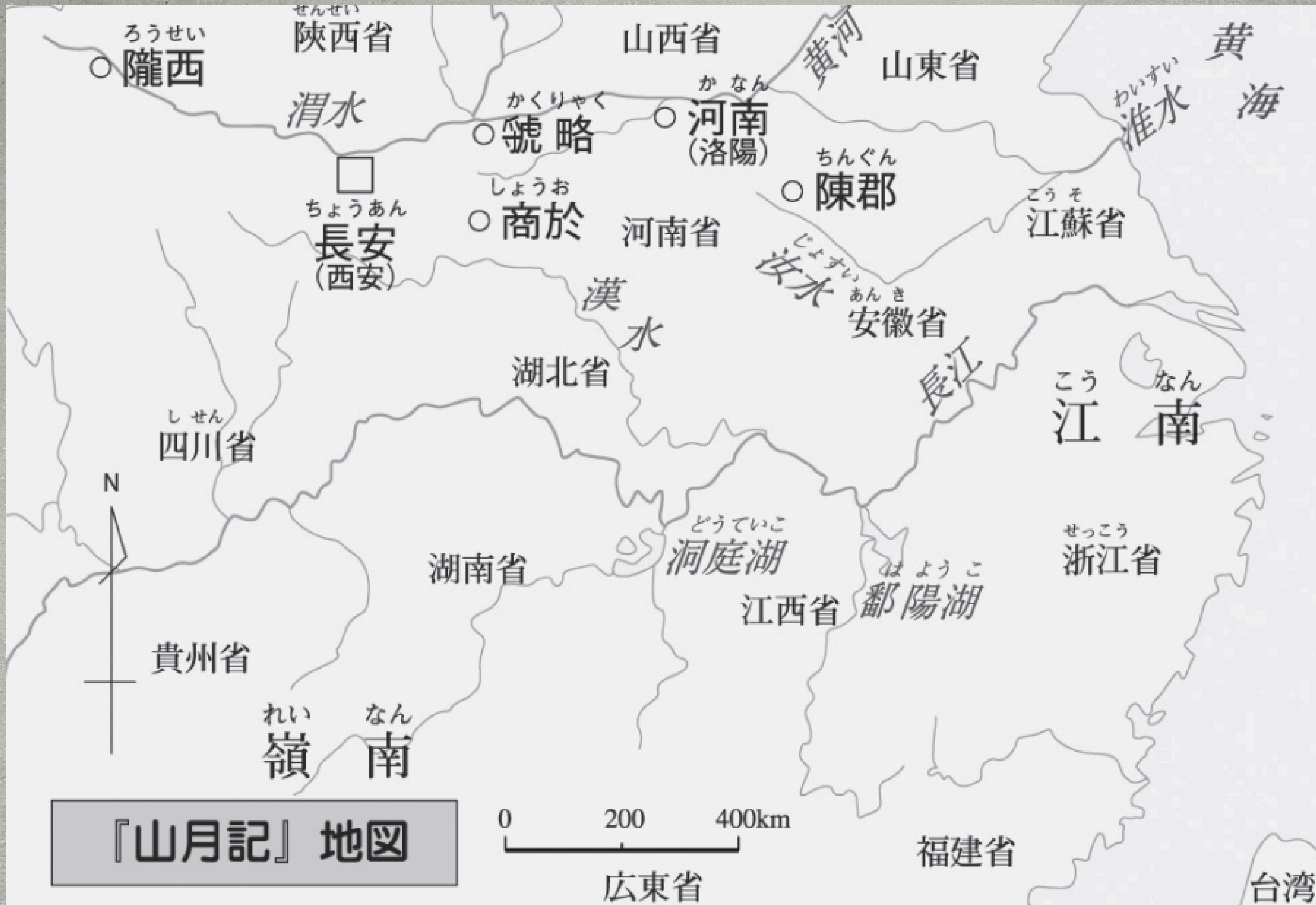
誰も行方を知る者はいなかった

李徴の人物像を総括し、**普遍的な観点**をもって理解しよう（令和の現在にもいる？ どういった特徴がある？）

自尊心を傷つけられた場面が、どれほどの苦痛だったのかを**想起**できる？ 似たような体験はある？

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景

李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景
李徴の人物像の説明と来歴、失踪の背景
李徴は進士試験に合格したが賤吏であることに満足できず、職を辞し詩人を志す。しかしその道は厳しく、生活のために再び地方官吏となるも発狂し、妻子を残して失踪する。



「山月記」地図

発展思考

Q1. (時代背景と権力構造の暗喩)

物語の舞台「天宝の末年」は、権力闘争と政治腐敗が渦巻く時代であった。李徴は進士試験の合格者名簿「虎榜（エリートⅡ虎）」に名を連ねたが、官を退いた。李徴が「賤吏に甘んずるを潔しとしなかつた」という表面的な理由の裏に隠された、時代背景から推測される真の理由（体制からの逃走）について考察しなさい。